

だし丸くんレポート 第八回はんだ山車まつり

第2回

はんだ山車まつりあれこれ

半田山車祭り保存会 会長 榊原敏雄

半田青年会議所（JCC）の熱い情熱と、強力な呼びかけにより永年の市民の夢であった半田の山車総揃えが、幾多の困難を乗り越え昭和54年5月5日のこの日に実現した。今年で8回を数える「はんだ山車まつり」の始まり、38年前の事でした。その壮大さ、華麗さに幾多の市民・関係者が涙したことでしょう。31輦の山車の勢揃いに努力された全ての人々に深い感謝を致します。半田山車祭り保存会もこれを契機に誕生いたしました。しかしながら、祭りの実現に至るまでの労力と金銭面の困難さ、神事とイベントとの軋轢等に阻まれ、定期開催とは行かず、いつの間にか幻の「はんだ山車まつり」として語りつがれるのみとなりました。

2回目の開催が持ち上がるのは、昭和62年の事でした。市制50周年を記念して幻の31輦勢揃いをもう一度見てみたいという声が大きくなり、前の経緯もあり青年会議所を中心に実行委員会が組織され、市民全体を巻き込んだ祭りが開催されました。この第2回目の開催を契機に継続開催の道が探られ、5年毎の秋の開催と市制記念事業としての行政の支援体制が確立致しました。その際、今後の開催は宵祭りを含む2日間開催とし、日本一の祭りイベントに育てていこうとの意志が確認されました。各山車組の融

和と協調、そして山車文化の浸透のため連合組織としての山車祭り保存会の強化・活発化が図られました。平成4年の第3回は最初の2日間開催ということもあり、全国へ祭りキャンペーン隊を派遣し、お隣の三重県四日市市で半田つてどこだ？と言われがっかりもしましたが、最終的には40万人を超える観客動員のもと盛大に開催されました。その後、4・5・6・7回と5年毎に開催され、動員数も第1回の8万人から、第7回の53万人へと拡大し、半田の祭りから日本の祭りへとその知名度を上げつつあります。今後は量的拡大から質的充実へと狙いを移し、半田が祭り文化の一大発



▲第2回はんだ山車まつり（昭和62年）

信拠点と成るべく「はんだ山車まつり」の充実発展の為、努力を続けていく所存です。尚、半田山車祭りの経緯、各地域の祭り等について、当保存会のホームページ（<http://dashimatsuri.jp/>）に記載していますので、ご覧ください。



防災 Memo

他国からのミサイル攻撃への対処について

この地域にミサイル攻撃の脅威が現実化した場合、国からJアラート（全国瞬時警報システム）を通じて、市内70基の防災行政無線の拡声器とみなさんの所有している携帯電話やスマートフォンに警報や発射情報が伝達されます。屋外にいる場合には、直ちに近くの頑丈な建物や地下に避難してください。

この地域に落下する可能性がある判断された場合の伝達内容（例）

- ①ミサイル発射情報…「ミサイル発射情報。先ほど〇〇からミサイルが発射された模様です。」
- ②避難の呼びかけ…「直ちに避難。直ちに頑丈な建物や地下に避難してください。ミサイルが落下する可能性があります。」

●問い合わせ 防災交通課 ☎84-0626

